

◆ 平成 26 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 エンハンスネイチャー荒川・江川

代表者：理事 小川早枝子

URL :

1. 活動が必要とされた状況

活動地江川下流の「サクラソウトラスト地」には、絶滅危惧の生き物が 50 種以上生息しており、さらに「埼玉県希少動植物の種の保護に関する条例」に指定された植物が 2 種類も自生しています。しかしこれらは気候変動による乾燥化や外来植物のインパクトで生存が脅かされており、希少動植物を次世代へ伝えるため私たちの活動が必須な状況です。



セイタカアワダチソウ抜き取り作業

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

9 月には世界で一番巨大な一年草といわれる外来植物「オオブタクサ」が結実します。この種子は一度蒔かれると 7 年以上芽を出し続けるため、9 月中に切り倒しました。外来植物「セイタカアワダチソウ」は耕作放棄地の一面に繁茂し、11 月までに抜き取りました。またサクラソウやサワトラノオの春の開花に必要な日照確保のために冬にヨシ刈取り、原野から運び出したり、一部野焼きを行います。



春に備え、ヨシの刈り払い作業

また、刈った後には水を入れて冬の生き物のための「水田んぼ」をつくって生物多様性を維持しました。

毎週、最低 15 人のボランティアが活動します。近くの領家工業団地の企業ボランティア、地域住民、また埼玉大学の学生たちが応援に来てくれました。



上尾市主催「ヨシ運び大会」。埼玉大学学生も作業を応援

3. 活動の成果

トラスト地周辺のオオブタクサはすべて伐採することができました。また、セイタカアワダチソウは隣接耕作放棄地の 8 割方は種を播く前に抜いたり、刈ったりできました。

トラスト地すべてのヨシ刈取りができました。水田んぼでは貴重な野鳥たちが越冬できました。タゲリ、イカルチドリ等が見られ、生物多様性の環境づくりができました。



水田んぼを掃除。オタマジャクシに快適環境を

4. 今後に残された課題

活動周辺には耕作放棄地が増える一方です。この耕作放棄地には外来植物の繁茂が広がるばかりです。原因は高齢化、農業後継者不足によるものです。しかし、私たちがこれは周辺の外来植物を駆除しなければサクラソウトラスト地の自然を次世代に伝えることはできません。活動の継続に邁進するために資金的、精神的ご支援を期待してやみません。